

90	心に残る私の先生 小学校5年生時の担任の先生が、ミニバスケットボールチームを立ち上げて、私が一期生でした。その後、中学、高校、大学、社会人とバスケットボールを続けたのも、その先生との出会いがあったからです。また、そのミニバスチームのコーチを引き継ぎ、今もミニバスケットボールチームを指導しています。今でも、靴を揃える指導は私が初めてバスケットボールを教えてもらった先生の指導です。	葛城市	51 歳
91	小学校3年の時、新卒でO先生が担任になられ、キラキラぼしの歌を英語で教えてくださいました。すごく印象に残ってます。中学校では、国語のk先生に朗読を褒められた事で未だに嬉しい気持ち忘れられません。 高校では、もう亡くなられたのですが、Y先生が弟さんが肝硬変で若くして亡くなった話をしてくださり、健康の大切さを学びました。その先生は、1年と3年も担任だったのですが、大学進学がなかなか決まらず、大変お世話になりました。沢山の先生方にお世話になっていた事、今更ながら感謝です。	新庄町	62 歳
92	小学校の6年の担任の先生。 針金鉄炮, 消しゴムハンコ, 実験, 手品, と子ども心をくすぐる学級経営で毎日ワクワクで登校していたことを今でも覚えています。	生駒市	39 歳
93	小学校で出会った、養護教諭の先生。 いつも明るくパワフルで元気をもらっていました。 田舎に引っ越して、不安いっぱいの中、休みがちだった私にも特別扱いをするわけでもなく、いつも対等に接してくれたことが嬉しかったです。 まだまだ、その時の先生のようにはなれませんが、今は保健室の先生として、私も頑張っています。	奈良市	34 歳
94	中学3年生のときの担任の先生が心に残っています。わたしの人生を振り返って1番楽しく充実した1年だったと思える中学校生活を送ることが出来ました。わたしが中学校へ教育実習へ行った時、すでに転勤されていましたが、わざわざわたしの様子を見に来て下さいました。中学校の時から色々なことを応援し、支えて下さいました。	奈良市	25 歳
95	一年目のとき、保護者対応に困っているとき、なんでも一緒に考えるからやってみー。と言ってもらい、自信もって保護者対応することができました。 当時の学年主任の先生とのエピソードです。	奈良市	36 歳
96	中学校の時の体育の先生が教師を目指すきっかけになった。今でも付き合いがあり、心の支えになっている。	天理市	42 歳
97	”『自分のペースで良いよ。』 友達に急かされるなか、恩師は私にそう言い続けてくれました。 私は小学3年生になっても、給食を時間内に完食することが出来ませんでした。 好き嫌いが多くいわけでもないのですが、すぐにお腹いっぱいになってしまいます。(早く食べ終われば、皆と外でキックベースができるのに…)そう思えば思うほど、お腹が膨らんでいきます。周りのみんなは、完食するのが早く、お代わりジャンケンをしています。(八宝菜、僕もおかわりしたいな…)再びお腹は膨らんでいきます。結局、時間は過ぎていき、休み時間になっています。急かしてくる友達も、外に行ってしまう。1人寂しく食べてるなか、担任の先生は、私の近くに来て、『自分のペースで良いよ。完食するまでいつでも待つわ。』と言ってくれました。お腹いっぱいの苦しさ、先生の優しさから、泣くことも多々ありました。 「今日の献立はカレーライス」 初めて時間内に完食できる、大チャンスが到来しました。大好きなカレーライスなら完食できると思い、一生懸命に掻き込みました。が、結局私だけが完食しておらず、時間まであと3分となりました。すると、担任の先生が「自分のペースで頑張れ、皆応援してるぞ」と言い、教室が頑張れコールで溢れました。初めて時間内に完食したとき、先生含め、全員が大喜び。完食と同時に、号泣しました。 あの時の、『自分のペースで良いよ』という、恩師の言葉が今でも忘れられません。教員になった今、児童生徒がのびのび育つように、自分のペースを大切にさせてあげたいと思います。	上北山村	24 歳
98	わたしに「親切な不親切、不親切な親切」を教えてくださいました先輩です。 子どもが困っている場面で、親切だと思って助けた(教師があれもこれもする)ことがその子どもの成長につながらなければ、結果としてそれは不親切(な行為)であり、それを子どもが自分で乗り越えられるようにあえて助けない(必要最小限の支援や助言をする)ことがたとえ不親切に見えたとしても、それは子どもの成長という面から見れば、親切になるという意味です。 (もし掲載されるなら、所属や名前はふせていただきたいです)	新庄町	47 歳

99

40歳になる年、それまで自分の思うように突き進んで来たのですが、これで良いのかと迷いが生じていました。ちょうどその時に、一緒にお仕事させていただいた先輩の先生が「子どもたちのことは心配せんでいいから、勉強しておいで。」と大学院派遣研修に申し込むかどうか悩んでいた私の背中を押してくださいました。それで大学院に行かせていただき、多くのことを学び、新しい経験も沢山させていただきました。その後、指導的立場になった時にも、学びの場をいただいた恩返しをしなければと苦しい仕事も頑張ることができました。子ども達をほったらかして自分だけ大学行くんかという風潮が強かった当時、背中を押して下さった先輩の先生の一言は私に大きな力をくださいました。感謝しています。若い先生方へ、幾つになっても学びの機会があるならば貪欲に食らいついてください。学びは決して無駄にはなりません。

木津川
市 62 歳

100

中学校3年生の時の担任の先生。
普段から生徒にものすごく近い存在の先生で、まるで父親のようでした。学校というところは本当の家族よりも長い時間、先生や仲間たちと一緒に過ごすわけで、いつしか家族以上の深い絆で結ばれたりもします。思春期であるこの頃は、本当の父親にはなかなか話せないことも、学校の父親には何でも相談できました。先生は生徒思いの話のわかる優しい先生ではありましたが、道理を外せば、それはもう鬼と化して厳しく怒ってくれ、正しい道へと導いてくれる先生でもありました。
学級や部活動では常に高い目標を掲げ、生徒に無理難題を与えてくる。「これは無理やろ」と思われることも、気がつけばいつの間にかみんなが一致団結して、その目標を目指し切磋琢磨している。そして、その結果がどうであれ、最高の達成感を与えてくれる、そんな先生でした。
いろんなことがあったけど、印象深かったのは卒業式の日。学級の子みんなが先生から一人一人呼名される場面で、私の担任の先生だけは当然のように名簿は持たず、一人一人の顔を見ながら名前を呼んでくれたことです。親なら当たり前のことかもしれませんが、すごく愛情を感じました。
2年ほど前、ある集まりで先生とお会いする機会がありました。「先生、ご無沙汰しております」と声をかけ、先生の前に頭を差し出すと、案の定、その頭を一発叩いて、「ええ大人になってるやないか！」と褒めてもらえました。この歳になればもう親も頭は叩いてくれませんが、唯一怒ったり褒めたり相談に乗ってくれるのは先生だけかなって思います。先生の前ではいつまで経っても私は子どもです。
私自身もそんな先生になりたいと思います。

香芝市 55 歳